

## 現状の課題

- ・児童が外国語を話すことに自信がもてず、声が小さくなってしまふ。
- ・「外国語の授業＝ゲーム的な活動が中心」であり、それを楽しむための授業だと児童が捉えている傾向がある。

## 具体の取組の内容

### 1. 授業における指導

(1) 語句定着のためのアクティビティの精選 (2) Small Talkの継続的な実施(第3学年以上) (3) 対話をつなげる言葉の積極的な例示と活動

### 2. 評価

(1) 全学年共通の話すこと(やり取り)の評価規準の作成 (2) ふりかえりシートの工夫

### 3. 児童の環境

(1) 日常的に外国語を話したり聞いたりできる環境づくり (2) 地域の教育資源の活用 (3) Englishルームの整備

### 4. 教師の環境

(1) ALTとの確実な打ち合わせの時間の確保 (2) 教材の整備、共有化  
(3) 教師の指示や発話を補助する掲示物の作成 (4) 教師の英語力の向上

### 5. 情報発信

(1) 白山中との情報共有 (2) English通信の発行 (3) 全学級の外国語・外国語活動の授業を公開



## 成果①

### 児童に実施したアンケートから(7月・1月)

・「英語は楽しいですか」という問いに対し、  
英語が楽しくないと回答した児童の割合

|     | (7月) | (1月) |
|-----|------|------|
| 3年生 | 7.9% | 7.3% |
| 4年生 | 10%  | 4.8% |
| 5年生 | 2.1% | 2.0% |
| 6年生 | 2.1% | 0%   |

→3～6年生で「楽しくない」の回答が減った。

・上記の「楽しい」を選んだ児童の中で「英語を話すのが楽しい」の項目を選んだ児童の割合

|     | (7月)  | (1月)  |
|-----|-------|-------|
| 5年生 | 19.7% | 32.9% |
| 6年生 | 21.3% | 24.7% |

→単語でなく、文で表現のできる高学年で「話すのが楽しい」と答えた児童が増えた。

## 成果②

### (1) 教員から見た児童の変容

- ・語句定着のためのアクティビティを精選し、実施したことで児童がやり方を理解し、スムーズに落ち着いて取り組んでいた。
- ・高学年は対話をつなげる表現を使いながら、友だちとの対話を楽しむ姿が見られた。
- ・外国語の授業以外でも、授業で学んだ表現などを使って、友達同士で話している場面が見られるようになってきた。

### (2) 管理職から見た教員の変容

- ・職員の指導・授業に対する自信の向上が感じられるようになった。ALT中心の授業から担任中心の授業への変換を図ることができた。

## 今後の課題・方向性

- ・「英語は楽しいですか」というアンケートで、楽しいと回答した児童が増えた学年とそうでない学年があった。発達段階に合わせた、指導法を考える必要がある。
- ・Small Talkの継続的な実施により、教師も児童も外国語を使って話すという習慣が身に付いてきたが、その際の話題の種類がまだ少ない。そのため、各教師が実際の授業で効果的であった話題を集め、共有化する必要がある。
- ・教師が外国語自体の技能を習得する研修会が年1回しかなく、少ない。短い時間でも外国語を使用する頻度をあげ、職員同士やALTを交えて練習をする。
- ・授業の中で教師が質問し、児童が答えるという場面が多い。児童が自ら質問し、教師や他の児童が答えるというような場面を増やし、さらに主体的な対話ができるようにしていく。